

## 平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年10月30日

上場取引所 JQ

上場会社名 テクマトリックス株式会社

コード番号 3762 URL <http://www.techmatrix.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 由利 孝

問合せ先責任者 (役職名) 企画部長

(氏名) 森脇 喜生

TEL 03-5792-8601

四半期報告書提出予定日 平成21年11月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	6,586	1.8	192	△31.7	208	△23.9	72	△23.0
21年3月期第2四半期	6,472	—	281	—	273	—	93	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	1,195.41	—
21年3月期第2四半期	1,514.61	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	10,199	4,815	44.1	74,498.83
21年3月期	10,482	4,816	43.2	75,054.59

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 4,499百万円 21年3月期 4,533百万円

### 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	1,800.00	1,800.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	2,500.00	2,500.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,000	11.6	750	1.3	750	△0.1	300	△16.7	4,967.05

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 有

新規1社（社名 株式会社カサレアル）

（注）詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

（注）詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの）

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	22年3月期第2四半期	61,898株	21年3月期	61,898株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	1,500株	21年3月期	1,500株
③ 期中平均株式数（四半期連結累計期間）	22年3月期第2四半期	60,398株	21年3月期第2四半期	61,898株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、5ページを参照してください。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の景気対策による下支え効果等により、個人消費や企業の生産活動はやや持ち直しの動きが見られたものの、円高による輸出企業の収益圧迫や、失業率が過去最高水準にあることなど、景気は未だ厳しい状況で推移しています。企業のIT投資においては、長らく中断されていたプロジェクトが再開される動きがあるものの、多くの企業においてはIT投資を抑制する傾向が続いており、当社グループをはじめとするITベンダー、システムインテグレーターにとっては厳しい受注環境が続いております。

このような環境下、当社グループでは、以下の取り組みを行いました。

- ① 医薬・製薬、医療、健康食品、通販、通信等、不況下においてもIT投資に対する意欲の強いセグメントや企業の見極めを行い、潜在顧客の発掘や提案機会の増加を図るための取り組みを強化しました。また、政府の補正予算案件獲得に向けた取り組みを行いました。
- ② 運用・保守サービスの受注に加えて、CRM分野におけるSaaSサービスや、子会社である合同会社医知悟のサービスを拡販するなど、ストック型収益の拡大に向けた取り組みを加速しました。
- ③ グリーンIT、仮想化ソリューション、SaaS（クラウドコンピューティング）等、コスト削減につながるIT投資の提案を強化しました。また、ネットワーク、ストレージ、セキュリティ分野を中心に、新製品・サービスの発掘に努めました。
- ④ クロス・ヘッド株式会社、沖縄クロス・ヘッド株式会社、ならびに前期に子会社化したエヌ・シー・エル・コミュニケーション株式会社との相乗効果を最大化して、グループとして総合力を発揮するための取り組みを継続しました。特に、保守/運用/監視サービスや受託開発におけるテストサービス等、従来グループ外に外注していた機能をグループ内に取り込むことにより、グループ内での自活の取り組みを推進しました。加えて、当第2四半期連結累計期間において株式会社カサレアルを完全子会社化し、カスタムメイド・ソリューション事業においても、グループ力強化の取り組みを進めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、65億86百万円と前年同四半期に比べ1億14百万円（1.8%）の増加、売上総利益は21億51百万円と前年同四半期に比べ1億41百万円（7.1%）の増加となりました。販売費及び一般管理費は、新卒社員の採用に伴い人件費が増加した一方、マーケティング経費などの販売費の抑制を行った結果、19億58百万円と前年同四半期と比べ2億31百万円（13.4%）の増加となりました。この結果、営業利益は1億92百万円と前年同四半期に比べ89百万円（31.7%）の減少となりました。

営業外収益は、為替差益21百万円等により24百万円を計上したものの、経常利益は2億8百万円と前年同四半期に比べ65百万円（23.9%）の減少となりました。

特別利益としては、投資有価証券売却益等13百万円を計上しました。しかし、税金等調整前四半期純利益は2億13百万円と前年同四半期に比べ31百万円（13.0%）の減少、四半期純利益も72百万円と前年同四半期に比べ21百万円（23.0%）の減少となりました。

各事業別の状況は以下のとおりであります。

### 1) プロダクト・インテグレーション事業

IPネットワーク・インフラストラクチャ分野では、前期に中断されていた大型案件を受注するなど、主力の負荷分散装置の販売が持ち直すとともに、保守サービスの受注の積み上がりが収益に貢献しました。加えて、文教分野向けインテグレーション案件を受注するなど順調に受注・売上を伸ばしました。一方、クラスター・ストレージ製品の販売は、商談が長期化する傾向が続きましたが、ストレージ仮想化製品については、複数の受注を獲得しました。子会社であるクロス・ヘッド株式会社ならびに沖縄クロス・ヘッド株式会社は、ネットワークインフラの保守/運用/監視などの請負業務が順調に推移しました。エヌ・シー・エル・コミュニケーション株式会社は、セキュリティ製品の販売は順調でしたが、ストレージ製品、CRM製品の販売は停滞しました。

セキュリティ・ソリューション分野では、個人認証システム、スパム対策アプライアンス、不正侵入防御アプライアンス、Webサイト脆弱性監査ツール等の主力製品の販売が堅調に推移しました。

ソフトウェア品質保証分野では、製造業向けを中心に組込みソフトウェア向けのテストツールは堅調に売上を伸ばすことが出来ましたが、情報システム向けテストツールの販売は停滞しました。

以上により、同事業の売上高は46億90百万円と前年同四半期に比べ3億56百万円（8.2%）の増加、営業利益は3億37百万円と前年同四半期に比べ82百万円（19.5%）の減少となりました。

### 2) カスタムメイド・ソリューション事業

カスタマー・ソリューション分野では、継続取引先におけるIT予算削減の影響や、一部の不採算プロジェクトの影響もあり、受注・売上を伸ばすことができませんでした。

金融ソリューション分野では、全体的に商談が長期化する傾向にあり、受注を伸ばすことができませんでした。

以上により、同事業の売上高は6億92百万円と前年同四半期に比べ3億51百万円（33.7%）の減少、営業損失は38百万円（前年同四半期は営業利益31百万円）となりました。

### 3) パッケージ・ソリューション事業

医療ソリューション分野では、前期に受注した複数の大型案件が無事カットオーバーし売上に貢献しました。また、新規の受注も積み上がりましたが、競合他社の価格攻勢の影響により採算面においては厳しい状況が続きました。

CRM分野では、既存顧客からの追加受注に加え、新規顧客向けの受注の獲得も進み、順調に受注・売上を伸ばしました。また、SaaSサービスの販売も立ち上がり始めました。

以上により、同事業の売上高は12億3百万円と前年同四半期に比べ1億9百万円（10.0%）の増加、営業損失は1億9百万円（前年同四半期は営業損失1億69百万円）となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の流動資産の残高は、前連結会計年度末（以下「前年度末」という）から3億49百万円（4.7%）減少し、71億6百万円となりました。受取手形及び売掛金の減少4億75百万円が主な要因であります。固定資産の残高は、前年度末から66百万円（2.2%）増加し、30億93百万円となりました。投資その他の資産33百万円の増加が主な要因であります。以上により、総資産は前年度末から2億83百万円（2.7%）減少し、101億99百万円となりました。

流動負債の残高は、前年度末から2億53百万円（5.1%）減少し、46億78百万円となりました。買掛金の減少2億67百万円が主な要因であります。固定負債の残高は、前年度末から28百万円（3.9%）減少し、7億5百万円となりました。社債40百万円の減少が主な要因であります。以上により、負債の残高は、前年度末から2億81百万円（5.0%）減少し、53億84百万円となりました。

純資産の残高は、前年度末から1百万円減少し、48億15百万円となりました。少数株主持分が31百万円増加する一方で、利益剰余金が36百万円減少したことが主な要因です。これにより自己資本比率は前年度末の43.2%から44.1%となりました。

当第2四半期連結累計期間における、営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期に比べ3億1百万円増加し、3億85百万円の収入となりました。法人税等の支払額の減少1億98百万円が主な要因であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期に比べ1億21百万円支出が増加し、2億21百万円の支出となりました。定期預金の払戻による収入の減少86百万円が主な要因であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期に比べ80百万円減少し、1億67百万円の支出となりました。短期借入金の返済による支出の実質的な増加54百万円が主な要因であります。

以上により、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前年度末に比べ3百万円減少し、23億92百万円となりました。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

現時点において、平成21年5月7日発表の業績予想から変更はありません。

## 4. その他

### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

当第2四半期連結会計期間より、株式会社カサレアルの株式を取得し、連結子会社に該当することとなったため、同社の貸借対照表のみ連結しております。

### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

#### 会計処理基準に関する事項の変更

#### 完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を第1四半期連結会計期間から適用し、第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、進捗部分について成果の確実性が認められる工事のうち、請負金額100万円以上かつ工期90日以上工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は40百万円、売上総利益、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ6百万円増加しております。

5. 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,394,721	2,398,965
受取手形及び売掛金	2,752,263	3,227,860
たな卸資産	359,150	256,598
前払保守料	1,232,624	1,133,554
その他	369,045	443,109
貸倒引当金	△1,751	△4,393
流動資産合計	7,106,054	7,455,695
固定資産		
有形固定資産	341,381	328,599
無形固定資産		
のれん	905,184	893,750
その他	678,499	669,499
無形固定資産合計	1,583,684	1,563,250
投資その他の資産	1,168,438	1,135,434
固定資産合計	3,093,504	3,027,284
資産合計	10,199,558	10,482,980

（単位：千円）

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	862,805	1,130,173
短期借入金	356,000	350,000
未払法人税等	80,985	219,357
前受保守料	2,554,049	2,257,685
賞与引当金	180,615	161,231
工事損失引当金	23	—
その他	644,480	813,552
流動負債合計	4,678,960	4,931,999
固定負債		
社債	250,000	290,000
長期借入金	18,317	34,447
退職給付引当金	375,798	349,622
役員退職慰労引当金	31,697	35,921
その他	29,300	24,030
固定負債合計	705,113	734,020
負債合計	5,384,074	5,666,019
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,298,120	1,298,120
資本剰余金	1,405,350	1,405,350
利益剰余金	1,839,633	1,876,149
自己株式	△46,145	△46,145
株主資本合計	4,496,957	4,533,473
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,622	△326
評価・換算差額等合計	2,622	△326
新株予約権	12,592	11,604
少数株主持分	303,310	272,209
純資産合計	4,815,483	4,816,960
負債純資産合計	10,199,558	10,482,980

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	6,472,176	6,586,416
売上原価	4,462,560	4,434,874
売上総利益	2,009,616	2,151,542
販売費及び一般管理費	1,727,712	1,958,915
営業利益	281,904	192,626
営業外収益		
受取利息	2,146	1,375
有価証券利息	534	—
受取配当金	329	629
為替差益	—	21,009
その他	1,849	1,840
営業外収益合計	4,859	24,854
営業外費用		
支払利息	4,080	3,603
為替差損	6,503	—
社債利息	—	2,096
その他	2,731	3,705
営業外費用合計	13,316	9,405
経常利益	273,447	208,074
特別利益		
固定資産売却益	781	—
投資有価証券売却益	—	13,248
貸倒引当金戻入額	237	593
その他	—	80
特別利益合計	1,018	13,922
特別損失		
退職給付費用	25,495	—
固定資産除却損	—	8,968
その他	4,233	—
特別損失合計	29,729	8,968
税金等調整前四半期純利益	244,736	213,029
法人税、住民税及び事業税	79,175	65,667
法人税等調整額	54,610	44,059
法人税等合計	133,785	109,727
少数株主利益	17,199	31,101
四半期純利益	93,751	72,200



(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	244,736	213,029
減価償却費	158,864	206,470
のれん償却額	40,212	48,926
受取利息及び受取配当金	△2,475	△2,004
有価証券利息	△534	—
支払利息	4,080	3,603
売上債権の増減額 (△は増加)	634,212	526,369
たな卸資産の増減額 (△は増加)	75,241	△102,186
仕入債務の増減額 (△は減少)	△436,901	△270,567
前受保守料の増減額 (△は減少)	234,865	296,364
前払保守料の増減額 (△は増加)	△127,976	△99,069
その他	△346,936	△237,791
小計	477,388	583,144
利息及び配当金の受取額	3,010	2,004
利息の支払額	△4,493	△5,684
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△392,459	△194,193
営業活動によるキャッシュ・フロー	83,445	385,271
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△67,241	△65,880
有形固定資産の売却による収入	958	—
投資有価証券の取得による支出	△47,800	△2,128
投資有価証券の売却による収入	—	22,310
無形固定資産の取得による支出	△47,532	△61,122
定期預金の払戻による収入	87,468	1,081
短期貸付けによる支出	—	△30,000
短期貸付金の回収による収入	—	30,000
長期貸付けによる支出	—	△50,000
長期貸付金の回収による収入	—	3,076
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△46,610
その他	△25,247	△21,988
投資活動によるキャッシュ・フロー	△99,394	△221,263
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	410,000	780,000
短期借入金の返済による支出	△350,000	△774,000
長期借入金の返済による支出	△26,922	△22,301
社債の償還による支出	△10,000	△40,000
配当金の支払額	△110,763	△108,186
その他	—	△3,254
財務活動によるキャッシュ・フロー	△87,685	△167,741
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△103,634	△3,734
現金及び現金同等物の期首残高	2,058,898	2,396,075
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,955,264	2,392,341

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結会計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

	プロダクト・インテグレーション事業 (千円)	カスタムメイド・ソリューション事業 (千円)	パッケージ・ソリューション事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	4,333,615	1,044,277	1,094,284	6,472,176	—	6,472,176
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	10,415	—	—	10,415	(10,415)	—
計	4,344,031	1,044,277	1,094,284	6,482,592	(10,415)	6,472,176
営業利益又は営業損失(△)	419,934	31,230	△ 169,672	281,492	411	281,904

(注) 1 事業の区分は内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な内容

(1) プロダクト・インテグレーション事業

最先端ソフトウェア及びハードウェアの販売、ネットワークシステムの提案・設計・構築、保守サービス及びITエンジニアの派遣等

(2) カスタムメイド・ソリューション事業

企業向けシステムの開発業務、ウェブ系技術を活用したシステムの受託開発及び保守サービス等

(3) パッケージ・ソリューション事業

自社開発業務パッケージの販売及び保守サービス、遠隔読影サービスを支援するためのITインフラの提供等

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	プロダクト・ インテグレーション 事業 (千円)	カスタムメイド・ソリ ューション 事業 (千円)	パッケー ジ・ソリ ューション 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	4,690,420	692,613	1,203,382	6,586,416	—	6,586,416
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,339	—	—	8,339	( 8,339)	—
計	4,698,759	692,613	1,203,382	6,594,755	( 8,339)	6,586,416
営業利益又は営業損失(△)	337,919	△ 38,402	△ 109,055	190,461	2,164	192,626

(注) 1 事業の区分は内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な内容

(1) プロダクト・インテグレーション事業

最先端ソフトウェア及びハードウェアの販売、ネットワークシステムの提案・設計・構築、保守サービス及びITエンジニアの派遣等

(2) カスタムメイド・ソリューション事業

企業向けシステムの開発業務、ウェブ系技術を活用したシステムの受託開発及び保守サービス等

(3) パッケージ・ソリューション事業

自社開発業務パッケージの販売及び保守サービス、遠隔読影サービスを支援するためのITインフラの提供等

#### 【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

在外子会社及び在外支店がないため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

在外子会社及び在外支店がないため、記載を省略しております。

#### 【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

海外売上高がないため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期連結会計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

該当事項はありません。